



第4章 | 各誘導区域の設定

- 4-1. 区域設定の考え方
- 4-2. 居住誘導区域の設定
- 4-3. 都市機能誘導区域の設定
- 4-4. 誘導区域外について
- 4-5. 道路・公共交通ネットワーク

第4章 | 各誘導区域の設定

4-1. 区域設定の考え方

本計画で示すエリアの範囲及び地域特性は、以下の通りです。

表4-1 各エリアの範囲及び地域特性

名称	地域特性	範囲
府中エリア	・主要な公共公益施設が集積する本市における生活中心街 ・交通結節点である府中駅・道の駅びんご府中がある	府中町、出口町、元町、府川町、目崎町
東部エリア	・商業施設等の生活利便施設が点在 ・住宅・工業・農業が混在した土地利用	鶉飼町、広谷町、高木町、中須町
上下エリア	・支所、病院、介護福祉施設などの施設を有する ・歴史ある町並み等の観光資源がある	上下町の用途地域内

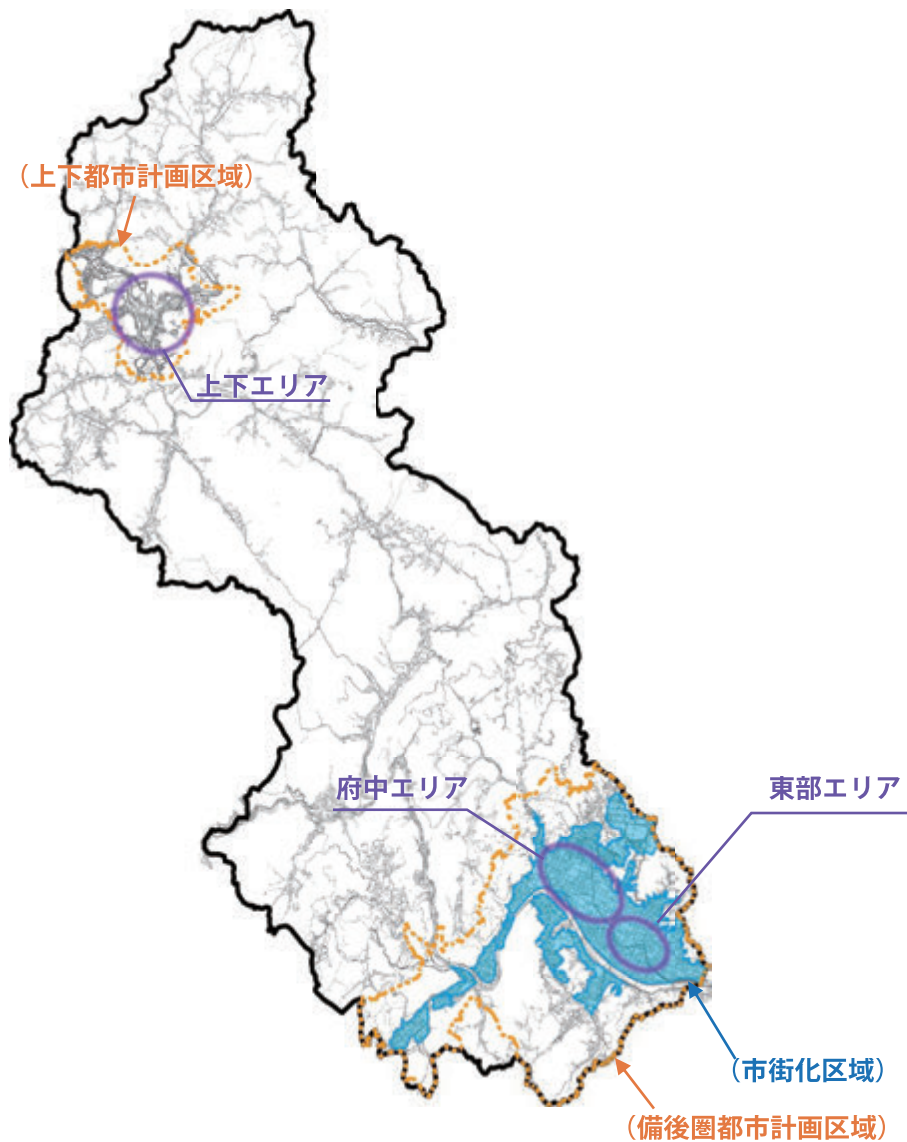


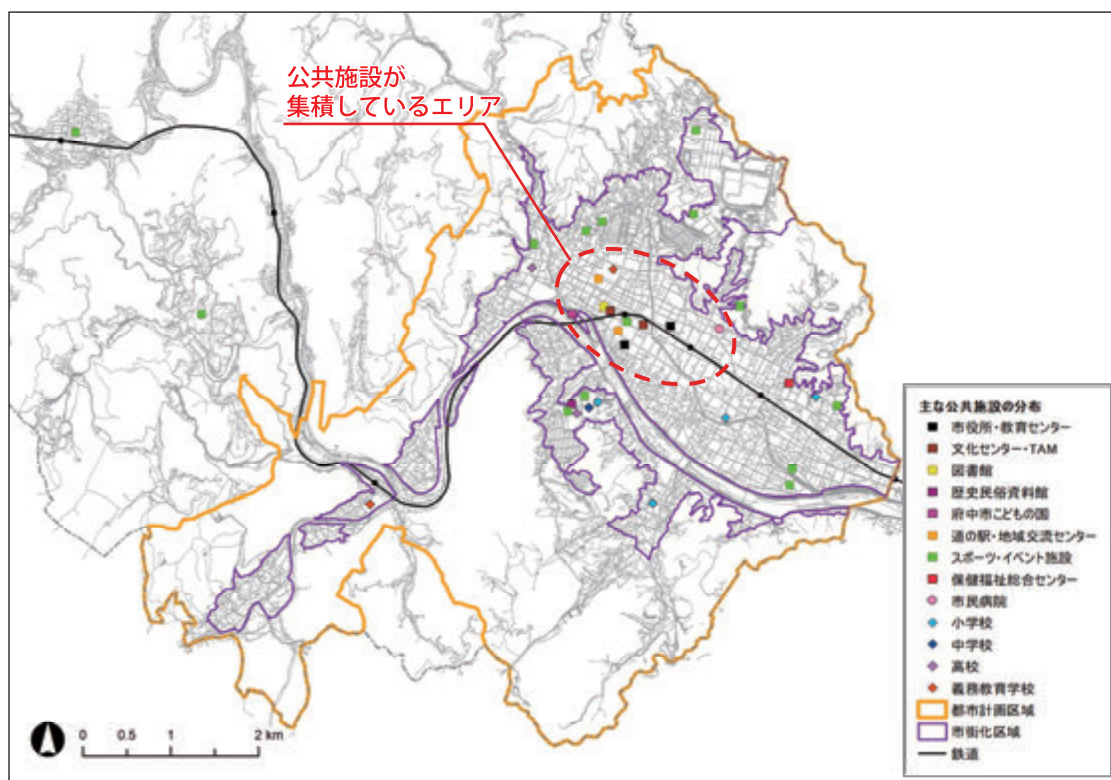
図4-1 府中市立地適正化計画における区域図

(1) 府中エリアに誘導する市街地像

1) 現状

府中エリアを含む生活中心街は、人口の減少が続いているものの、行政機能、子育て機能、介護福祉機能、金融機能、商業機能など都市機能が集積しています。また、府中駅は府中市内の拠点をつなぐ公共交通が運行されているほか、広島市や福山市へのアクセスも可能となっています。

上記を踏まえて、平成 29 年の府中市立地適正化計画策定時に居住誘導区域及び都市機能誘導区域が設定されました。



出典：国土数値情報（市町村役場及び公的集会施設、公共施設、学校、医療機関）を基に作成

図4-2 備後圏都市計画区域における公共施設の分布

府中市立地適正化計画策定後には、府中市グランドデザインを策定し、生活に必要な都市機能等が府中駅周辺に集積し、道路や公共交通機関で結ばれることで、中心市街地を含む都市全体で住みやすく、快適な生活空間の形成を目指しています。



図4-3 府中市グランドデザインにおける20～30年後の将来の過ごし方のイメージ

2) 誘導方針

現行計画同様に都市機能誘導区域を設定し、行政機能を含む公共公益施設などが集積されている状況や道路、公共交通のネットワークにより集まりやすいという利点を生かし、引き続き、府中市全体の生活拠点として、都市機能の活用により、さらなる賑わいの創出を図っていきます。

- ①市全体の生活拠点として都市機能を集約する。(都市構造(公共施設や便利施設の集積))
- ②鉄道やバス、道路などのネットワークを確保し、交通結節点の強化を図る。(ネットワーク)
- ③障がいの有無にかかわらず多世代が歩いて過ごしやすい空間を確保する。(バリアフリー)
- ④拠点施設の連携による相乗効果で、賑わいが生まれ多世代の交流を促進する。(賑わい)
- ⑤移住者等との交流や空家活用により、歴史ある町並みの魅力を活かす。(賑わい)
- ⑥浸水対策やマイタイムラインの作成などの防災体制の強化を推進する。(防災)

【暮らしのイメージ】

コンパクトで便利な暮らし

- ・ 府中駅周辺には市役所等の公共施設や商業施設、飲食店、病院・診療所、金融機関などの日常生活に必要な施設が集積し、歩いて移動ができる。【誘導方針①】
- ・ また、駅の南側では、道の駅が駅周辺の核となる施設として整備され、周辺には人々がくつろげる交流広場があり、週末には多様なイベントが開催され、賑わいが生まれ市内へ波及している。【誘導方針①、④】
- ・ 高齢者や子育て世代をはじめ、多世代が住みやすい住環境がつくられ、利便性の高い商業施設や交通環境が整備されている。また、不自由なく趣味や地域活動等に没頭し、一日をゆったりと快適に暮らすことができる。【誘導方針①、③、④】

府中らしい暮らしを実感

- ・ 商店街のリノベーションも進み、まちなかで働く市民が仕事終わりにふらっと趣味やスポーツ・健康づくり等に没頭し、飲食等のアフターファイブを楽しめる。【誘導方針①、④、⑤】
- ・ 歴史ある町並みなど地域に魅力を感じる人々の移住定住により、空家等利活用がされている。【誘導方針④、⑤】
- ・ 多様で特色のあるものづくりの現場を開放し、子どもたちをはじめ、歴史ある地場産業や地元企業に親しみをもち、ものづくり技術を実感できる。【誘導方針⑤】

公共交通機関や徒歩、自転車など移動手段が充実

- ・ 府中駅を主要交通結節点と位置付け、広域的な移動の拠点となるほか、府中駅のバリアフリー化、駅前空間の改良により交通結節点としての機能を高め、鉄道・バスが利用しやすく、市内外への買い物や通勤・通学がしやすい。【誘導方針②】
- ・ 広域ネットワークの機能が強化され、県北部地域や岡山広島都市圏からも交流が増えている。【誘導方針②】

安全・安心に暮らせる

- ・ 浸水などの災害ハザードがあるものの、マイタイムラインや防災訓練など防災意識の高まりとともに、地域コミュニティが維持され、自主防災組織が整っている。【誘導方針⑤】



コンパクトで便利に暮らしやすい

駅の周りにいろんな施設がまとまってきて、移動にかかる時間が減ったから、だいぶ時間に余裕ができるようになったのよね。それに、いろんなイベントが開かれていて、毎週たくさんの人で賑わってるから、まちもすごく活気があるよね。

府中らしい暮らしを実感

平日の仕事終わりには、ジムに行ったり、近所の飲み屋で飲み会をしたり、アフターファイブを楽しんでいますね。休日は子どもと一緒に『ものづくり体験』などに参加してます。ただ遊ぶだけでなく、親子でコミュニケーションを深められるので、とても貴重な時間です。



公共交通機関や徒歩、自転車など移動手段が充実

免許はもう返したけどなあ、家の近くのバス停から乗れば、買い物も病院も楽に行けるから助かるとるんじゃ。誰の力も借りずに、自分で用事を済ませられるのは、ええもんじゃなあ。

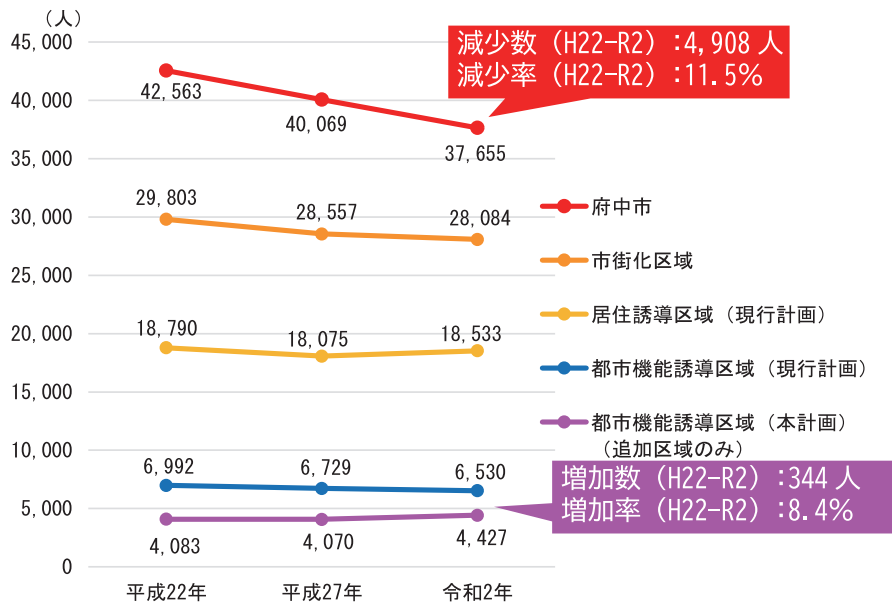


参考 4-1 20年後の住民の声のイメージ

(2) 東部エリアに誘導する市街地像

1) 現状

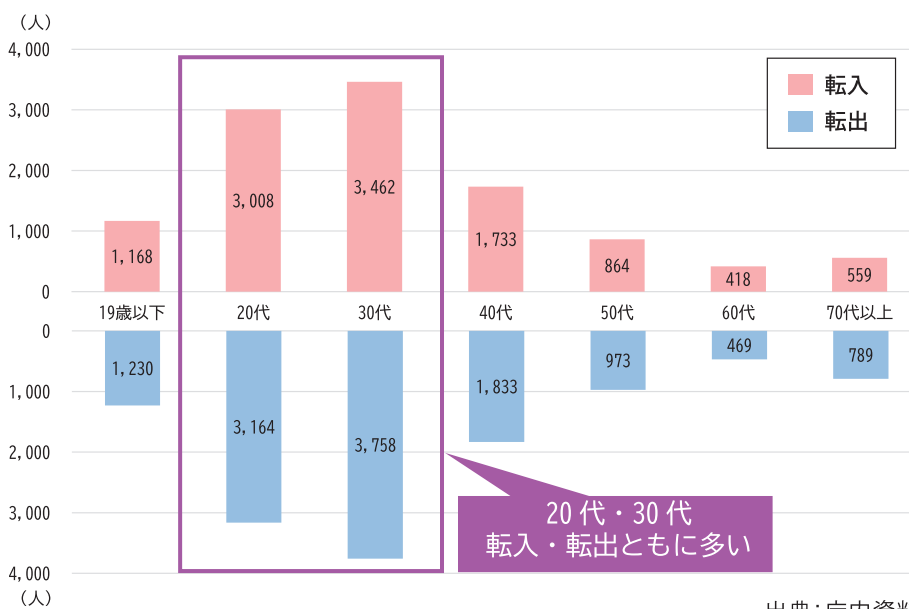
新規に設定する東部エリアの都市機能誘導区域が含まれる地域の人口は、平成22年と比べると8.4%の増加となっています。一方、該当するエリアにおける年代別転居転入数をみると、20代、30代が多く転入しているものの、同様に20代、30代の転出者も多い状況となっており、転出者の減少に向けた取組が必要となっています。



※府中市(市全域)の人口以外については、国勢調査の町丁目別人口を100mメッシュ居住人口に変換し、各区域に50%以上含まれるメッシュの居住人口のみを集計しているため、実際の居住人口と差異が生じる場合があります。

出典：国勢調査(H22、H27、R2)

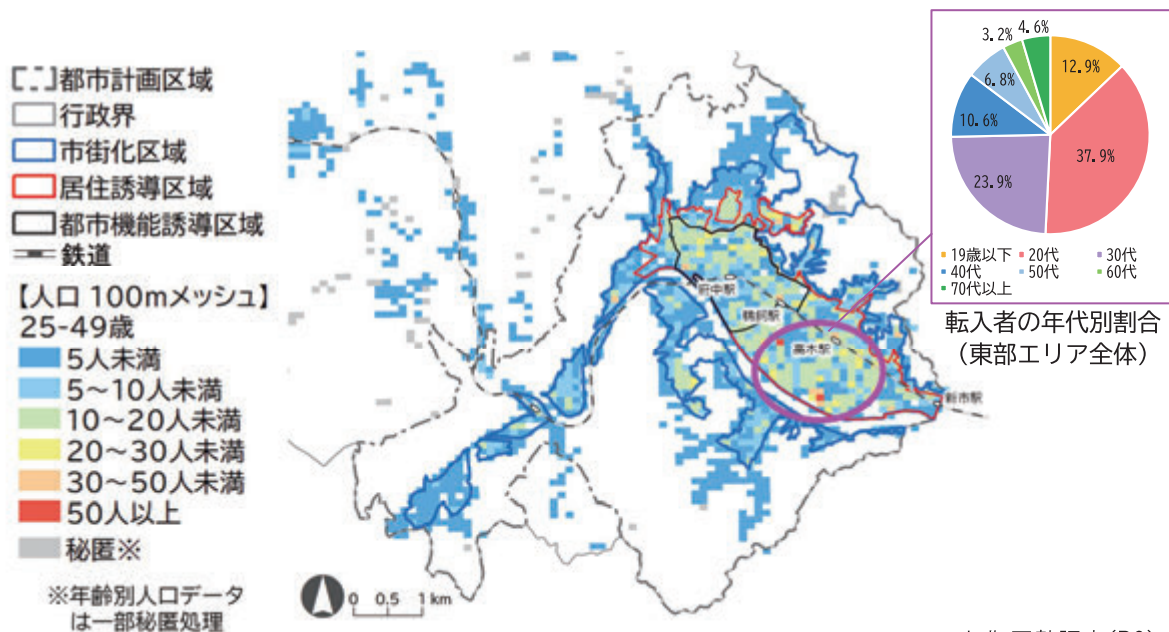
図4-4 地域別人口の推移(東部エリア)



出典：庁内資料

図4-5 高木町、中須町、鶺鴒町、広谷町の転入転出(H24～R6)

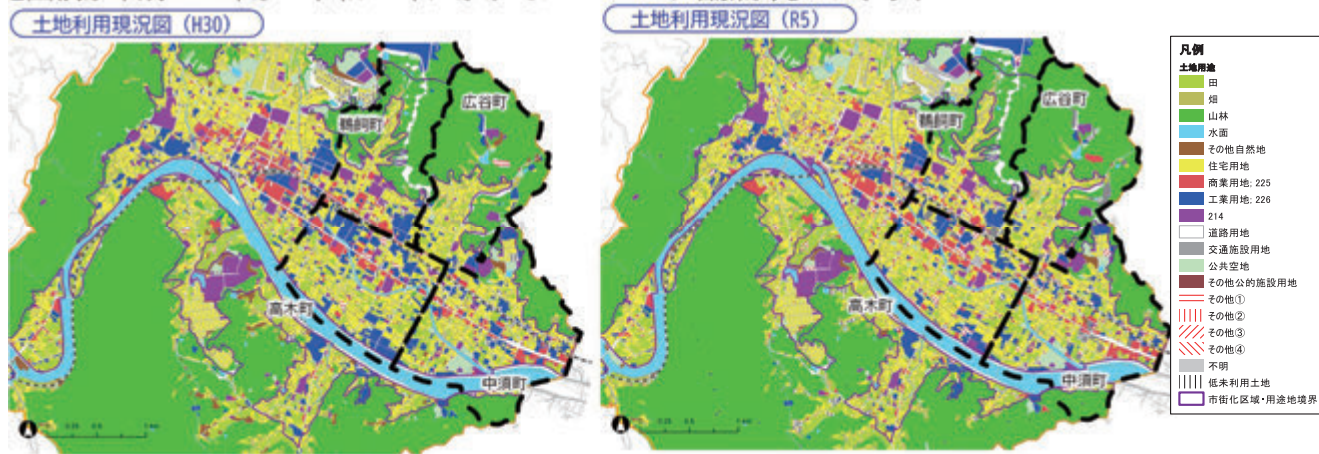
また、高木町、中須町周辺の基本市街地東部では、転入者を見ると、高木町、中須町、鵜飼町、広谷町では30~40代が多くなっており、子育て世代の集積が見られます。



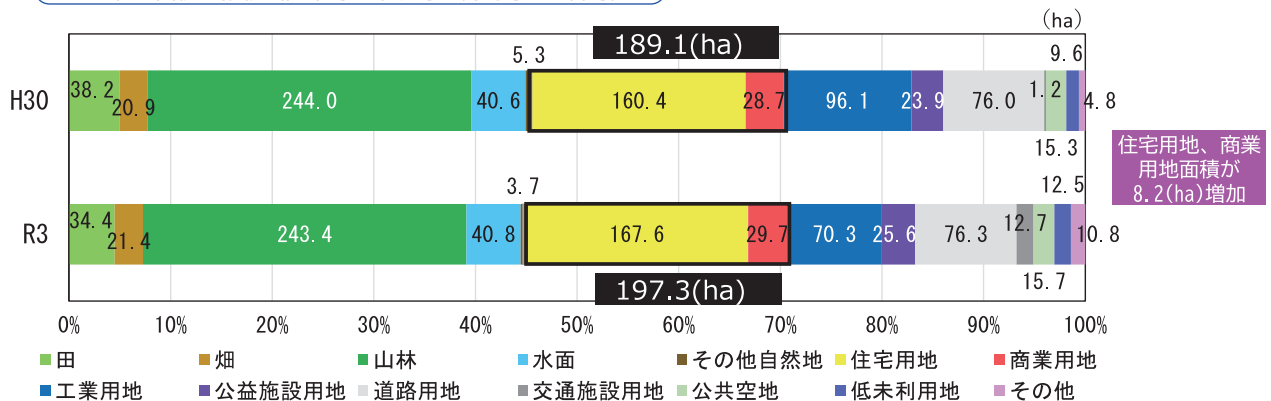
出典:国勢調査(R2)

図4-6 25-49歳の人口メッシュ図

また、高木町及び中須町、鵜飼町、広谷町における土地利用面積の変化をみると、住宅用地及び商業用地面積が平成30年から令和5年にかけて、8.2haの増加が見られます。



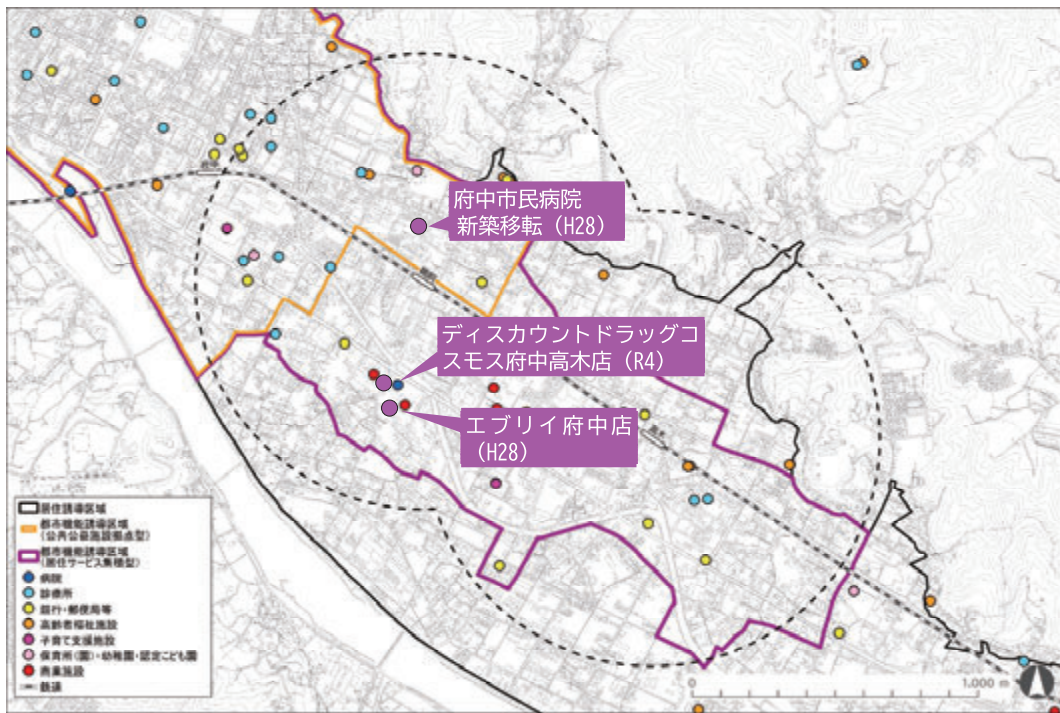
土地利用面積の推移 (高木町、中須町、鵜飼町、広谷町)



出典:都市計画基礎調査(H29、R3)

図4-7 東部エリアにおける土地利用の変化

都市機能の集積状況をみると、府中市民病院の新築移転や商業施設の新規立地が見られます。



出典:国土数値情報(病院、高齢者福祉施設、商業施設)、府中市 HP(指定緊急避難場所、指定避難場所)、全国大型小売店舗総覧 2024 年度版(東洋経済新報社)

図4-8 都市機能の集積状況図

2) 誘導方針

市内でも子育て世代の人口流入が比較的多い利点を生かして、これからも住み続けてもらえるようにロードサイドにおける商業等の立地を誘導し、魅力的な市街地となるよう、都市機能誘導区域を見直し、さらなる誘致につながる道路や公園などの住環境の整備やソフト施策を通して、子育て世代をはじめとした住民の利便性向上を図っていきます。

- ①個性ある公園や子育てサービスの充実を図り、子育て世代を中心とした住環境を確保する。(住環境)
- ②産業の軸である栗柄広谷線(南北道路)、商業の軸である国道を包括したエリアに産業や商業施設などの生活利便施設を誘導する。(都市構造・土地利用)
- ③職住農が調和する土地利用の推進を図る。(住環境)
- ④公共交通の利用促進を図り、安心しておでかけができる環境を確保する。(ネットワーク)
- ⑤浸水対策やマイタイムラインの作成などの防災体制の強化を推進する。(防災)

【暮らしのイメージ】

子育て世代に嬉しい、優しい

- ・ ロードサイドに病院・診療所、商業施設や飲食店などが立地し、地域の魅力や利便性が増している。特に、子育て応援サイトに登録したお店が増え、子育て世代にやさしい暮らしができる。【誘導方針①】
- ・ 個性豊かな公園や砂川の整備により、自然を感じながら、遊びが楽しめる空間がある。【誘導方針①、③】
- ・ 居住に係る支援が充実しており、当該地域を定住の選択肢として安心して選ぶことができる。特に、子育て世代への住宅支援や市営住宅などの受け皿も整っており手厚い支援が受けられる。【誘導方針①】

居住環境が整った住宅地


- ・ 狭あい道路の解消などにより、区画が整いまとまった住宅地整備の促進がされている。【誘導方針①】

職住農近接による暮らしやすさ

- ・ 職住が近接した暮らしにより移動時間の短縮が図られ、余暇時間を楽しむことができる。【誘導方針②】
- ・ 企業の地域貢献により公開空地进行を積極的に取り組み、美しい景観や親しみやすい住環境となっている。【誘導方針②】
- ・ 複数の商業施設が集積し、一定の広さの駐車場が整備されており、移動も買い物も快適な暮らしができる。【誘導方針①】
- ・ 道路や拠点までの移動手段が充実している。【誘導方針④】
- ・ 菜園付き住宅やコミュニティ農園の普及により、ゆったりとした暮らしを楽しむことができる。また、浸水対策の一助を担っている。【誘導方針③、⑤】


安全・安心に暮らせる

- ・ 浸水などの災害ハザードがあるものの、マイタイムラインや防災訓練など防災意識の高まりとともに、地域コミュニティが維持され、自主防災組織が整っている。【誘導方針⑤】



子育て世代に嬉しい、優しい・子どもたちの遊び場のある空間


国道沿いにはスーパーやクリニック、飲食店があって、子育てに必要な施設が揃ってるし、生活がしやすいんだよね。それに、子育て世帯専用の住宅があって、同じくらいの世代の人たちが多く住んでるのも、ここに住もうって思ったきっかけだったんだよね。



放課後は友達と公園や川で遊んだりして、毎日めっちゃ楽しいんだ!!!

職住農近接による暮らしやすさ

職場の近くに引っ越したことで、通勤時間がかなり短くなって、生活に余裕が持てるようになったのが、何よりの収穫ですね。せっかくなので、前から興味があった家庭菜園を始めました。

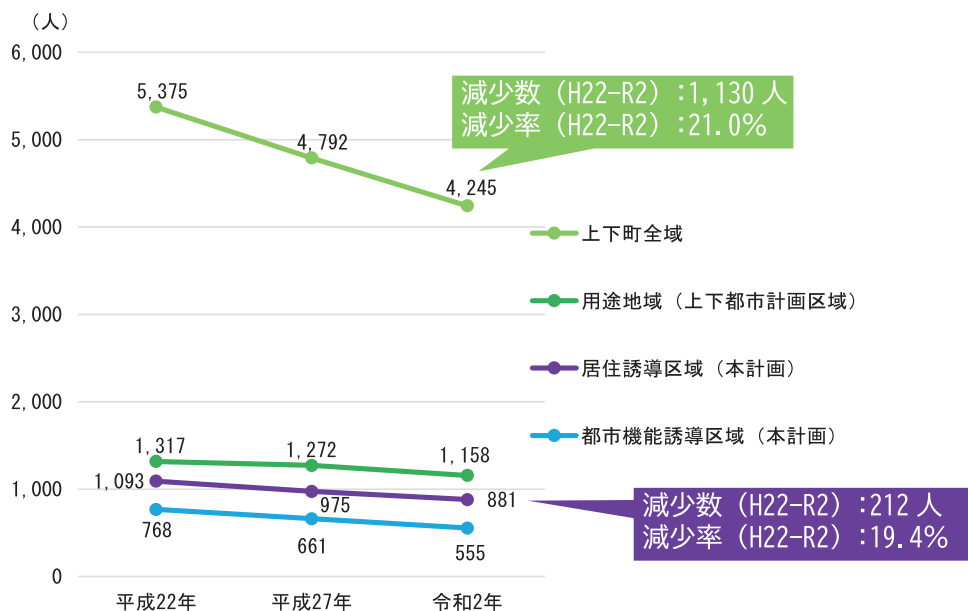


参考 4-2 20年後の住民の声のイメージ

(3) 上下エリアに誘導する市街地像

1) 現状

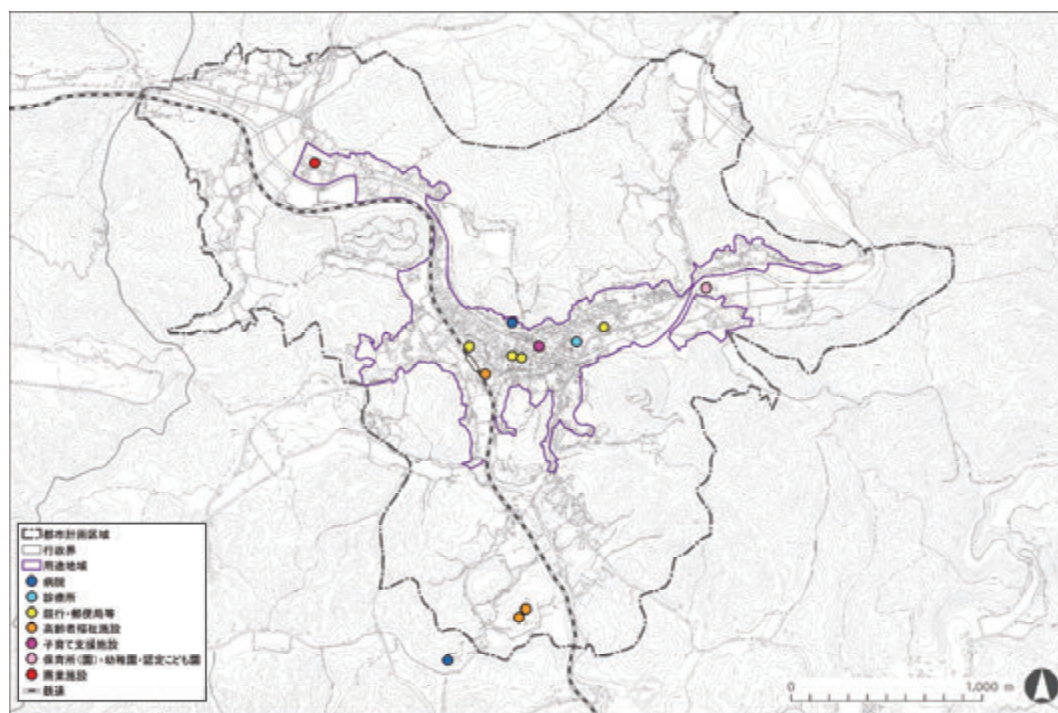
上下町の用途地域内の人口は、減少傾向にあり、府中市全体の人口の減少率よりも高い傾向にあります。中心部には、JR 福塩線「上下駅」のほか、医療施設、福祉施設、スーパー、金融機関などの都市機能が集積しており、高齢者や子育て世代の生活を支援する環境が整っています。



※府中市(市全域)の人口以外については、国勢調査の町丁目別人口を 100mメッシュ居住人口に変換し、各区域に 50%以上含まれるメッシュの居住人口のみを集計しているため、実際の居住人口と差異が生じる場合があります。

出典:国勢調査(H22、H27、R2)

図4-9 地域別人口の推移(上下エリア)



出典:国土数値情報

図4-10 都市施設の分布状況(上下用途地域内)

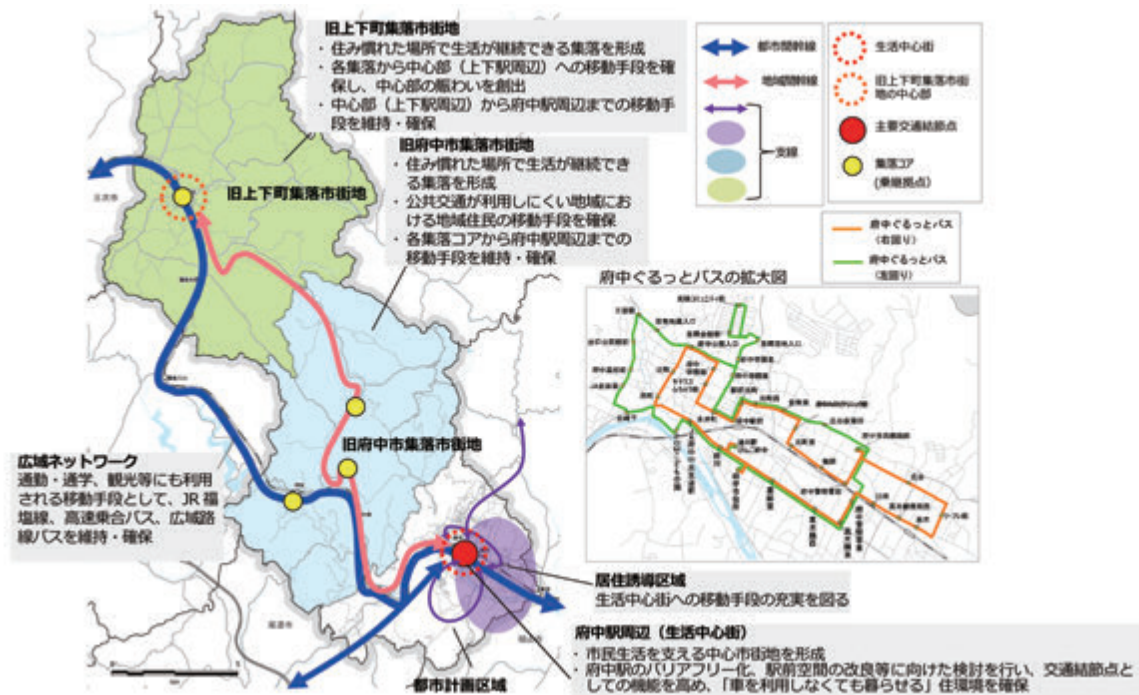
上下町では、地域住民によって維持・保全されている白壁の町並みなどの歴史的資源を活用した観光振興が行われています。



出典:(一社)天領上下まちづくりの会 HP

図4-11 地域資源の分布状況(上下用途地域内)

公共交通の運行状況を見ると、当該地区には上下駅が位置しており、デマンド型乗合タクシーにより各集落から中心部（上下駅周辺）への移動手段が確保されているとともに、中心部（上下駅周辺）や市外への広域的な移動手段が維持・確保されています。



※府中市ぐるっとバスの拡大図はR7.4時点
出典:府中市地域公共交通計画(R6.3)

図4-12 公共交通ネットワークの運行状況

2) 誘導方針

市北部の生活拠点として、公共施設や医療施設や商業施設など生活に必要とされる都市機能の維持を図るとともに、町並みや建造物、農業、スポーツ施設等、地域資源を活かした観光・交流による地域コミュニティの活性化を図っていきます。加えて、府中エリアや市外へとつながる鉄道等の公共交通や道路のネットワークの維持確保を図っていきます。

- ①上下町の生活拠点として都市機能を維持する。(都市構造(公共施設や便利施設の集積))
- ②公共交通や道路などの広域的なネットワークを確保する。(ネットワーク)
- ③町並み等の歴史的な地域資源を活かし、観光交流や移住促進を進める。(賑わい)
- ④上下中心部と周辺部の交流を促進する。(賑わい)
- ⑤地域コミュニティを維持し、活発な地域活動を推進する。(賑わい)
- ⑥浸水対策やマイタイムラインの作成などの防災体制の強化を推進する。(防災)

【暮らしのイメージ】

上下中心部と周辺部との繋がり

- ・食料品店や医療施設、金融機関など、生活に必要な施設が維持されており、上下町のどこに住んでいても、安心して快適に暮らすことができる移動手段が確保されている。【誘導方針①、②】
- ・地元で採れた新鮮な農産物を上下中心部の商店や様々なイベントで販売し、中心市街地と上下地域が一体となって魅力を高め、多くの人々が行き交っている。【誘導方針④】
- ・身近に観光(農業)体験ができる環境があり、上下町の魅力を体験・実感することができる。【誘導方針④】
- ・周辺部のコミュニティが維持されている。各地域コミュニティの維持を図る中で、上下中心部は、交流拠点として市民が楽しめる場所となっている。【誘導方針①、⑤】

移住や観光、スポーツで広がる交流

- ・歴史ある建物や美しい街並みに魅力を感じて移住者と地元住民間での交流から新たな地域活動へ発展している。【誘導方針③】
- ・移住者が上下中心部の空家を再活用し、新しいお店等を開くことで、地域全体の活気が生まれている。【誘導方針③】
- ・観光や農業、スポーツなど他分野の人々が上下中心部に集まることで、新たな交流が生まれ、相乗効果もたらされている。(関係人口の創出や移住につながっている。)【誘導方針③】


広域的なネットワークの充実

- ・ 公共交通(デマンド型乗合タクシーなど)や道路網の再編により、各集落から上下中心部への移動手段が確保されている。**【誘導方針②】**
- ・ 上下駅を中心とした鉄道やバスなど上下中心部と中心市街地、近隣市町をつなぐネットワークなど、多様な公共交通手段により、広域的な通勤や通学等必要な移動・交流ができる。

【誘導方針②、③】

安全・安心に暮らせる


- ・ 浸水などの災害ハザードがあるものの、マイタイムラインや防災訓練など防災意識の高まりとともに、地域コミュニティが維持され、自主防災組織が整っている。**【誘導方針⑤】**




上下中心部と周辺部との繋がり

上下町はね、医療施設や食料品店、それに駅やバス停もあって、日常生活に必要な施設がちゃんと揃っていて、わしは畑で育てた野菜を、地域の直売所で販売しているよ。

移住や観光、スポーツで広がる交流



息子のスポーツ大会の応援でこのまちに来ましたが、実際に来てみたら歴史ある建物やキレイな町並みがあって、入ったお店の人たちもすごく優しく、特産品なども教えてもらい、とっても素敵なまちで、今度は家族で観光に来たいなって思います!!!



広域的なネットワークの充実

府中市外の高校に通ってるけど、電車やバスがあるから家族に送迎をお願いしなくても通学できて、助かる！運転免許を持ってないから、友達と好きなアーティストのライブに行くときは高速バスを使って広島市内にもいけるからほんとに便利！

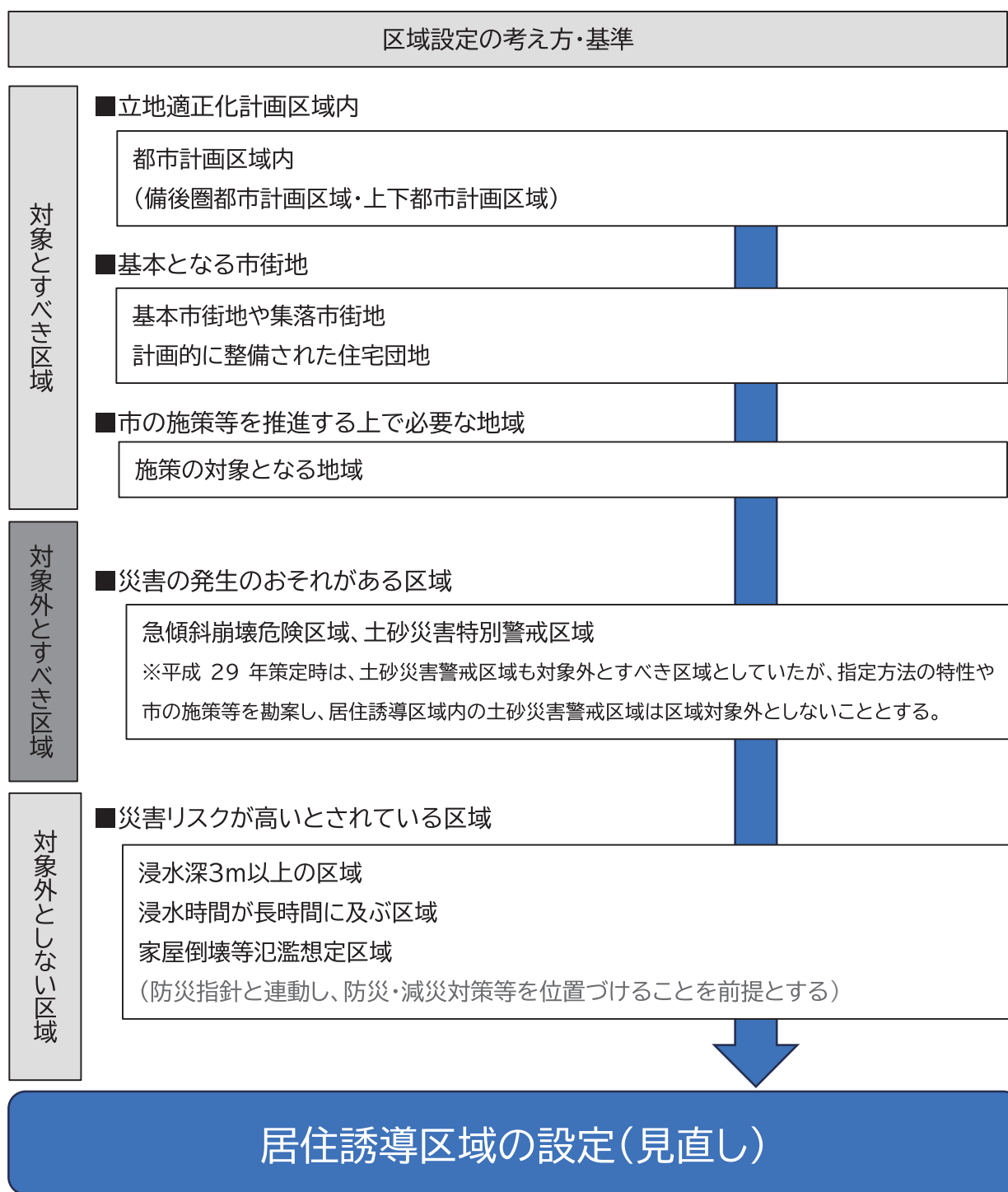
参考 4-3 20年後の住民の声のイメージ

4-2. 居住誘導区域の設定

(1) 居住誘導区域の基本的な考え方

居住誘導区域とは、人口減少の中にあっても、一定程度のエリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるように居住を誘導する区域です。

そのため、居住誘導区域は都市全体における人口や土地利用、交通や財政の現状及び将来の見通しを勘案しつつ、居住誘導区域内外の住環境を確保し、地域における公共公益施設の維持運営など都市経営が効果的に行われるよう下記のフローに従い、居住誘導区域を設定します。



※道路や土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域、地番界、用途地域等により定めます。

1) 災害の発生のおそれのあるものの居住誘導区域から除外しない区域の考え方

① 浸水深 3m以上の区域の考え方(洪水)

避難所までの移動が困難な住民は 2 階以上建物への垂直避難となりますが、浸水深が 3.0m超える区域は垂直避難が困難なため除外することが考えられます。

しかし、浸水深 3.0m以上の区域には既に住宅や商業施設等が立地していることや本市ではハザードマップ等において、風雨が激しくなる前(浸水前)の避難を推奨しており、自主防災組織等による避難訓練の実施や警戒避難体制の強化などによるソフト対策、浸水対策による避難路の確保などによるハード対策の取組を推進し、災害リスクをできる限り回避・低減することを前提として、居住誘導区域に含めた区域設定を行います。

② 浸水継続時間が長期に及ぶ区域の考え方

浸水継続時間が長期に及ぶ区域では、垂直避難後に避難所等安全な場所への避難ができない可能性があるため、当該区域からの除外が考えられます。

しかし、浸水継続時間が長期に及ぶ区域には既に住宅や商業施設等が立地していることや本市では、ハザードマップ等において、風雨が激しくなる前(浸水前)の避難を推奨しており、自主防災組織等による避難訓練の実施や警戒避難体制の強化などによるソフト対策、浸水対策による避難路の確保などによるハード対策の取組を推進し、災害リスクをできる限り回避・低減することを前提として、居住誘導区域に含めた区域設定を行います。

③ 家屋倒壊等氾濫想定区域の考え方

家屋倒壊等氾濫想定区域は、洪水時に家屋が流出・倒壊等のおそれがあるため、居住誘導区域から除外することが考えられます。

しかし、家屋倒壊等氾濫想定区域である芦田川沿いには既に住宅や商業施設等が立地していることや本市では倒壊前の避難を推奨していることも踏まえて、自主防災組織等による避難訓練の実施や警戒避難体制の強化などによるソフト対策、浸水対策による避難路の確保などによるハード対策の取組を推進し、災害リスクをできる限り回避・低減することを前提として、居住誘導区域に含めた区域設定を行います。

【府中エリア・東部エリア】

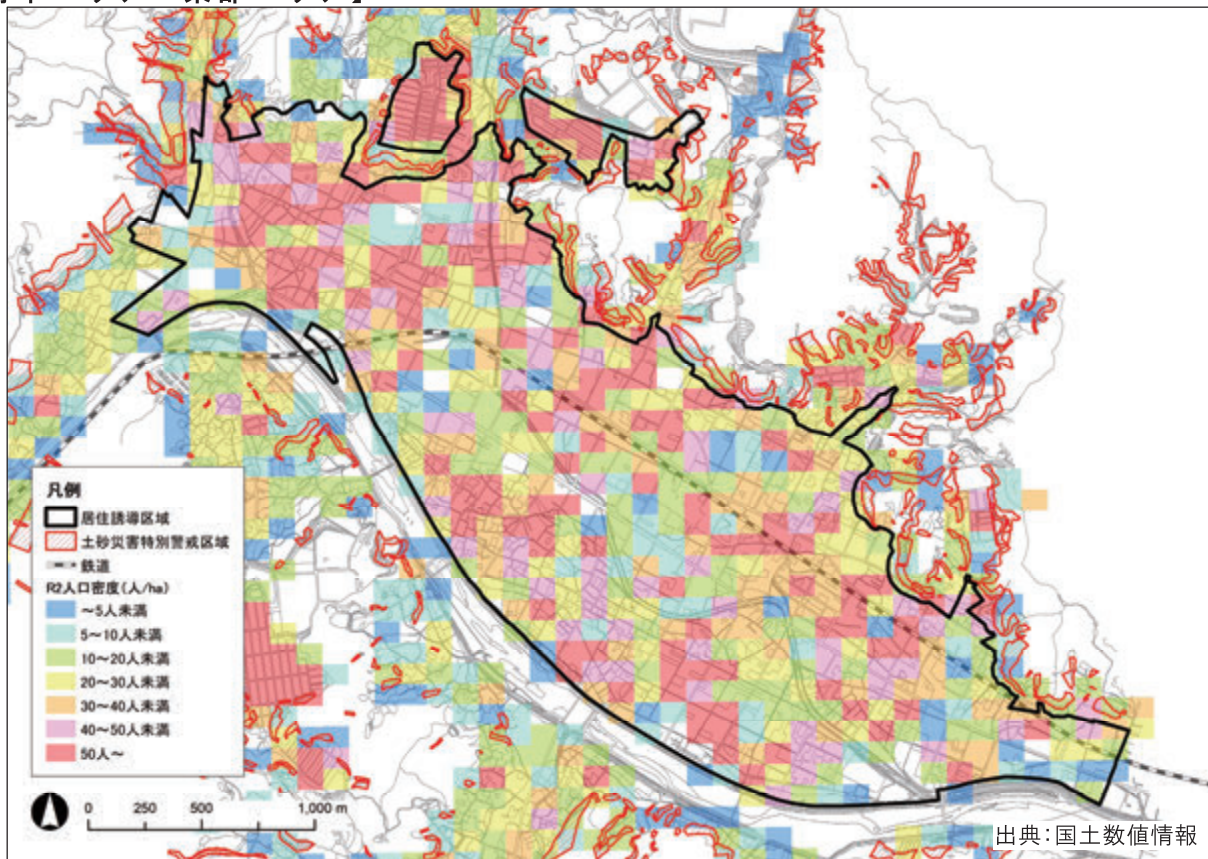


図4-13 居住誘導区域(府中・東部エリア)

【上下エリア】

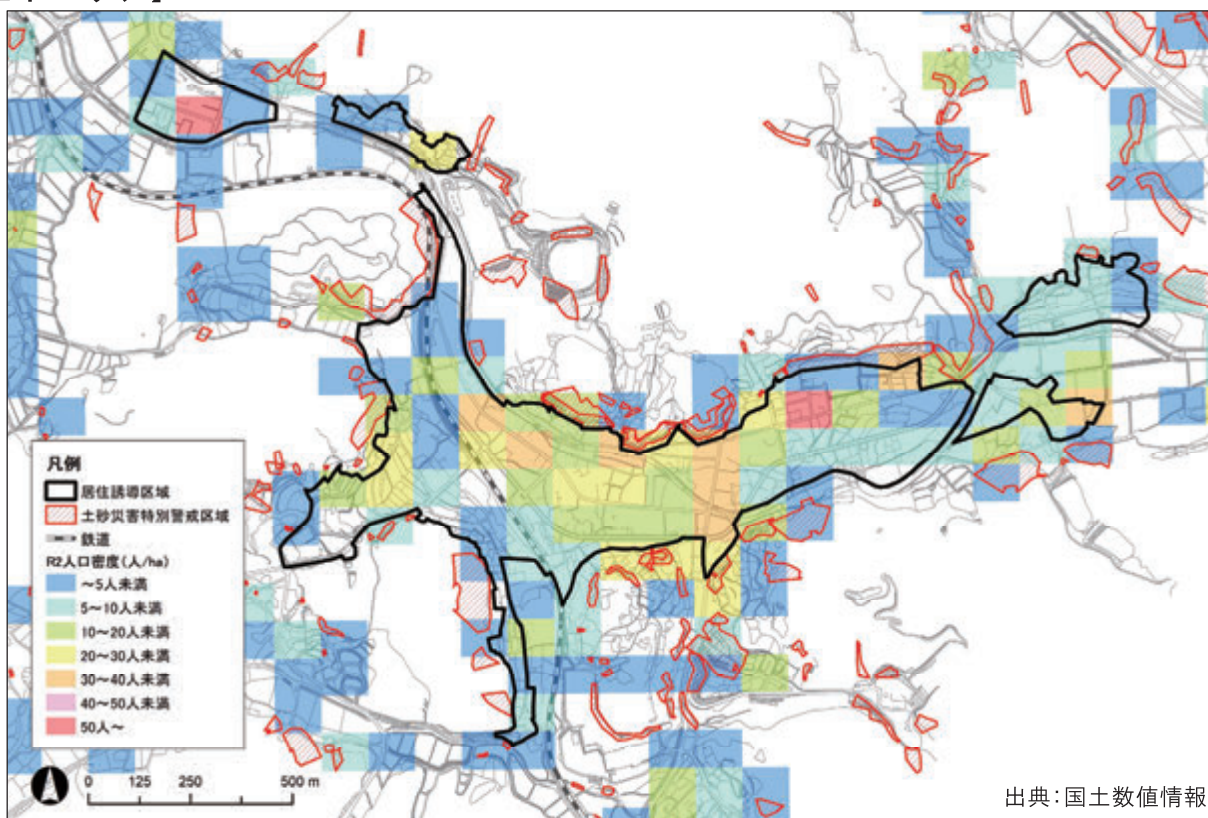


図4-14 居住誘導区域(上下エリア)

4-3.都市機能誘導区域の設定

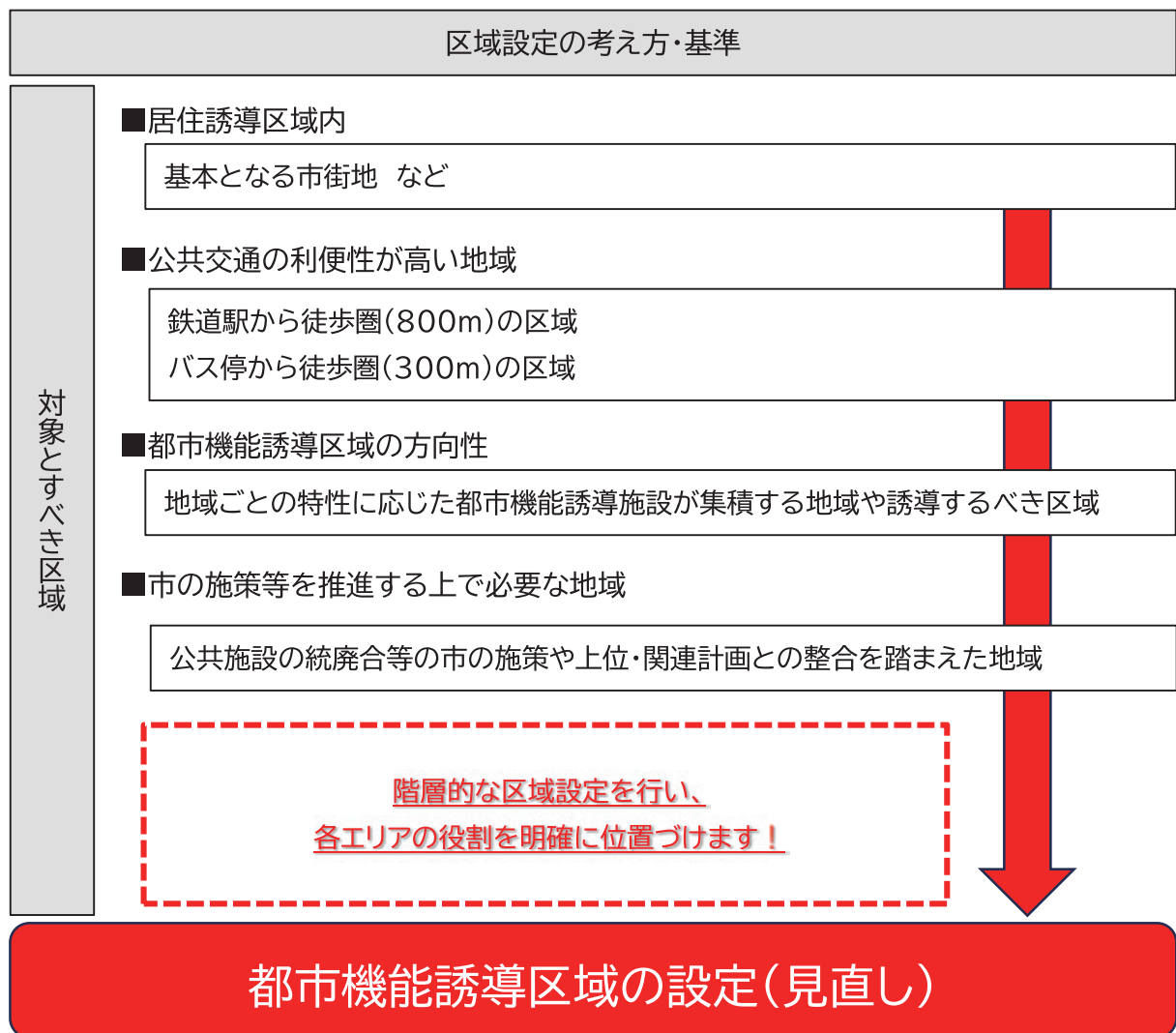
(1) 都市機能誘導区域の基本的な考え方

都市機能誘導区域とは、医療施設、福祉施設、商業施設その他の都市の中心拠点や生活拠点に誘導し集約することにより、これらサービスの効率的な提供を図る区域です。

そのため、土地利用や人口等の現状及び将来の見通しを勘案し、地域ごとに適切な都市機能誘導施設を誘導し、居住の適正化が効果的に図れるように区域を設定します。

具体的には居住誘導区域内の公共交通の利便性が高い地域で、公共施設の統廃合等の市の施策や上位・関連計画との整合を踏まえて、検討を行いました。

検討の結果、本計画では、行政機能、教育機能、交流機能など主要な公共施設等の高次の都市機能を誘導する都市機能誘導区域（公共公益施設拠点型）と子育て世代の集積及び主要道路沿線への商業施設の新規立地を踏まえ、商業機能、子育て機能などの生活利便施設の維持・誘導を図る都市機能誘導区域（居住サービス集積型）、新規で計画区域とした上下都市計画区域においては、行政、医療など生活機能の維持・誘導を図る都市機能誘導区域（集落交流拠点型）の設定を行い、持続可能な都市の実現のため、下記のフローに従い、都市機能誘導区域を設定します。



※道路や土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域、地番界、用途地域等により定めます。

表4-2 階層的な考え方

区分	考え方
都市機能誘導区域 (公共公益施設拠点型)	市全体の生活を担う都市機能の維持・誘導を図る区域
都市機能誘導区域 (居住サービス集積型)	商業機能、子育て機能などの生活利便施設の維持・誘導を図る区域
都市機能誘導区域 (集落交流拠点型)	行政、医療など生活機能の維持・誘導を図る区域
居住誘導区域	生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう、居住を誘導する区域

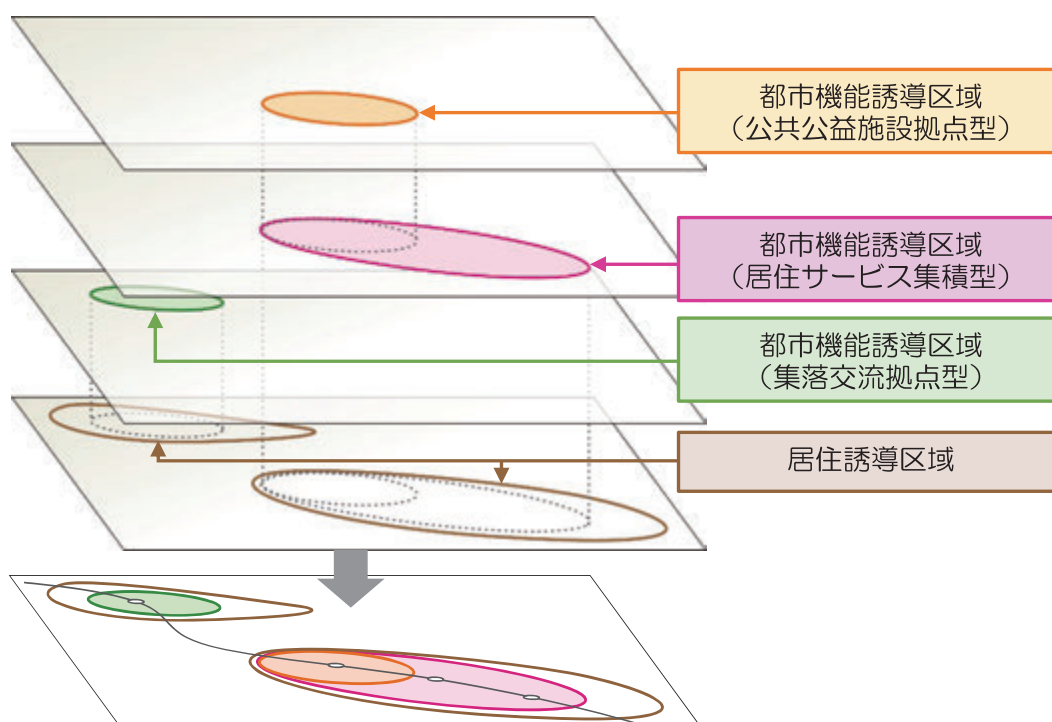


図4-15 階層的な都市機能誘導区域、居住誘導区域設定のイメージ

なぜ、階層的な区域設定を用いて、都市機能誘導区域を見直すのか？

現在、市全体の核となる地域では、都市機能の集積が行われ、さらなる賑わい創出に向けた取組を推進していますが、一方で、今後、人口減少により、都市機能の維持が困難になってくることが想定されています。そのため、府中市では、より一層、都市機能の維持や人口ガムの機能の強化が求められています。

そこで、各都市機能誘導区域の誘導方針に基づき、区域ごとの役割を明確にし、効率的でメリハリのある都市構造を目指すため、階層的な区域設定を用いて、都市機能誘導区域を見直します。

1) 都市機能誘導区域（公共公益施設拠点型・居住サービス集積型）

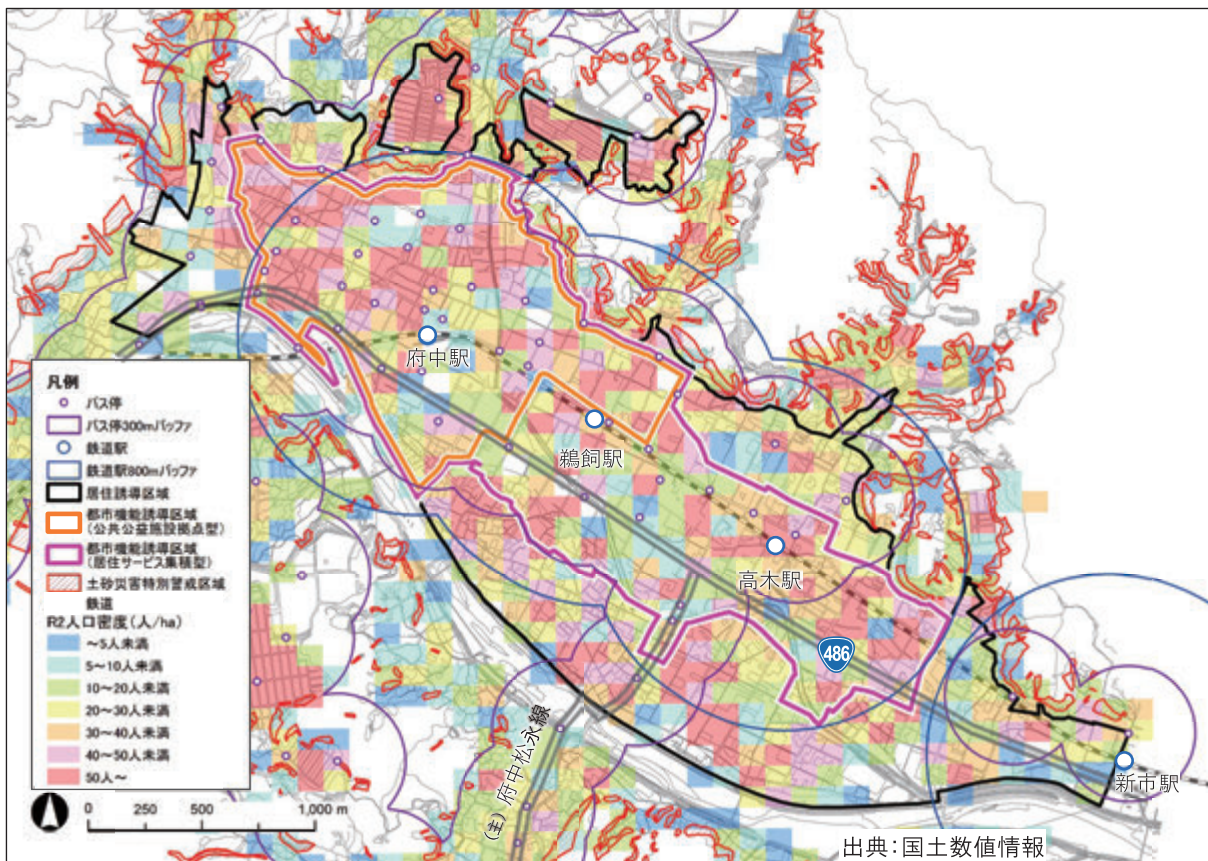


図4-16 都市機能誘導区域（公共公益施設拠点型・居住サービス集積型）

2) 都市機能誘導区域（集落交流拠点型）

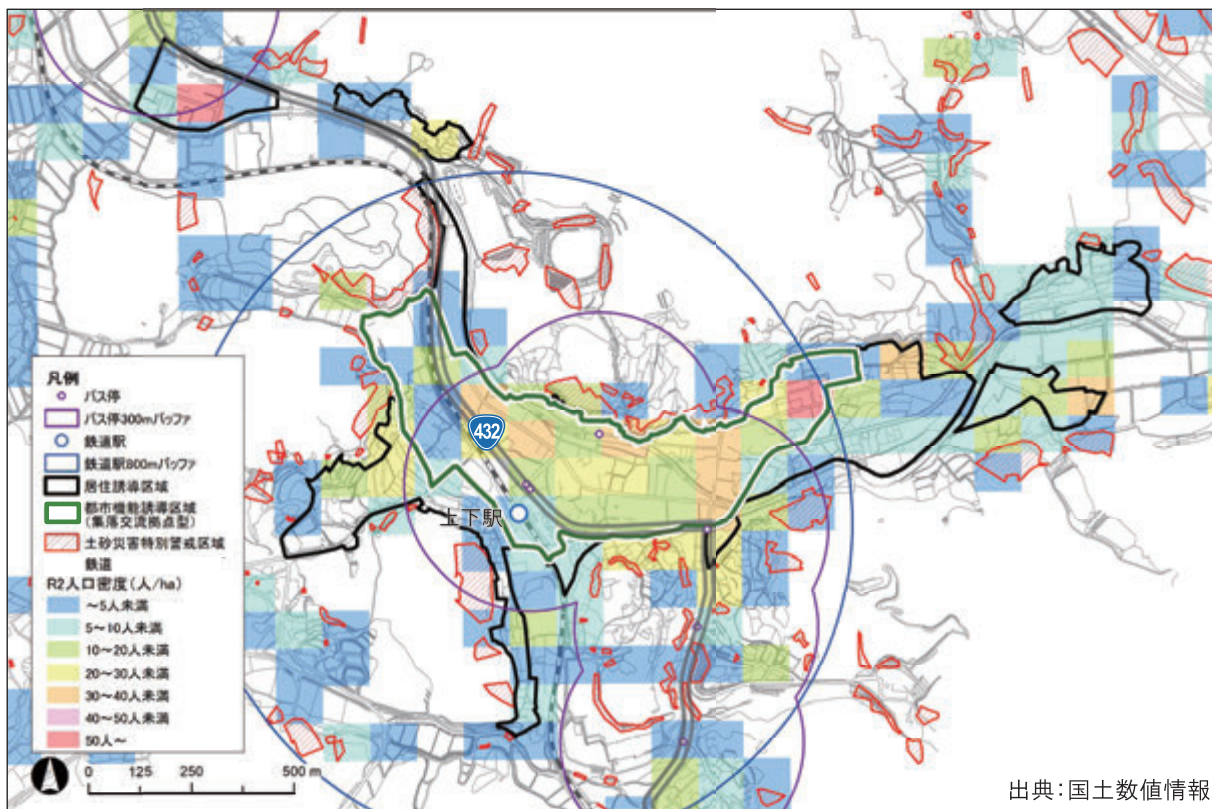


図4-17 都市機能誘導区域（集落交流拠点型）

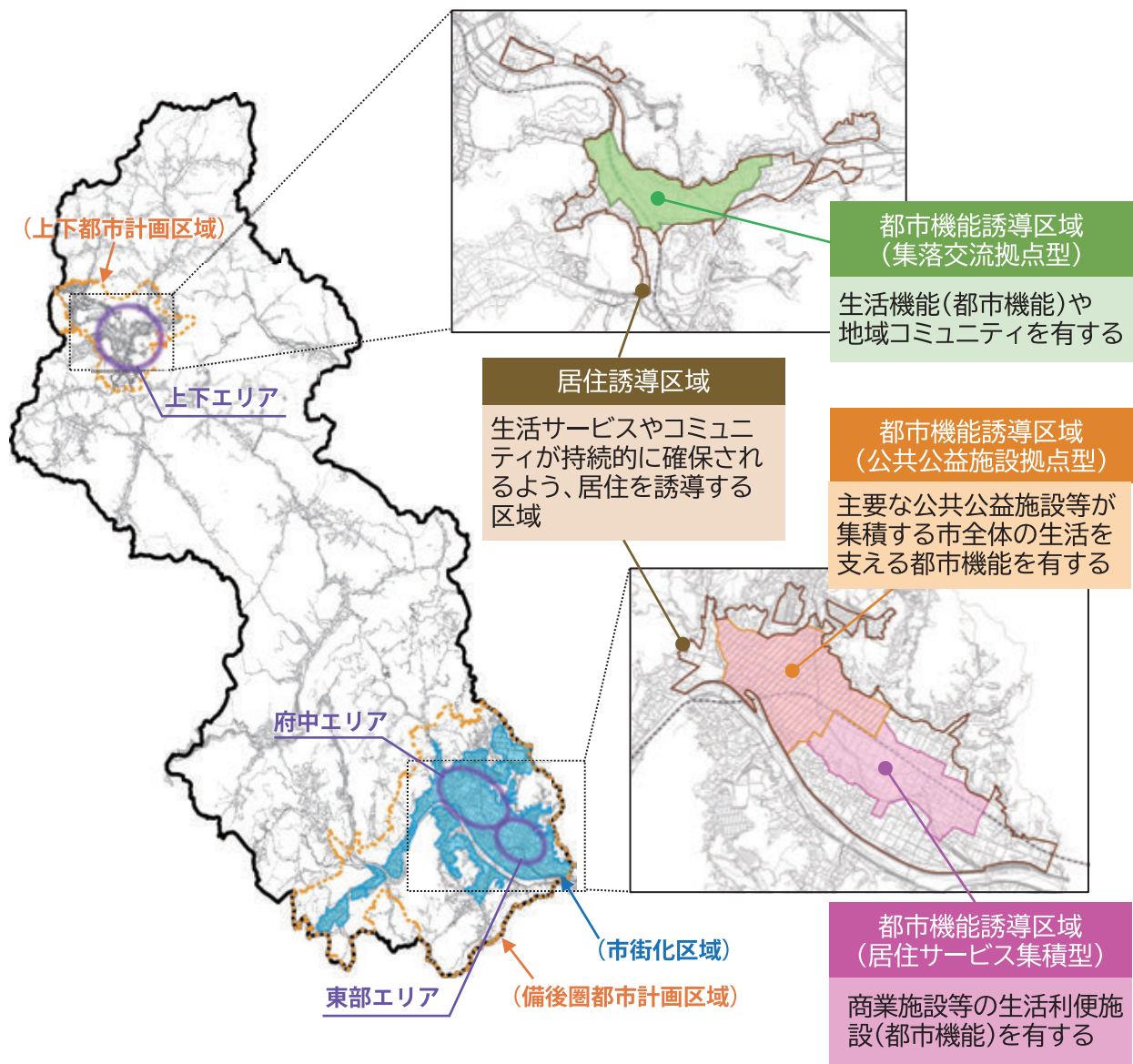


図4-18 府中市立地適正化計画における区域図(再掲)

(2) 誘導施設の設定

都市再生特別措置法では、誘導施設とは、医療施設、福祉施設、商業施設、その他都市の居住者の共同の福祉又は利便のため必要な施設であって、都市機能の増進に著しく寄与する施設と定義されています。本市では、各エリアの誘導方針等に基づき、下記の表のとおり、誘導施設を設定します。

表4-3 各都市機能誘導区域における誘導施設

都市機能	誘導施設	都市機能誘導区域		
		公共公益施設 拠点型	居住サービス 集積型	集落交流 拠点型
行政機能	本庁	○	-	○
	支所			
介護福祉機能	地域包括支援センター	○	-	○
子育て機能	子育て世代活動支援センター	○	○	○
商業機能	多機能拠点施設	○	※	○
	商業施設(大型商業施設:10,000m ² 以上)	○	-	-
	商業施設(店舗面積:3,000m ² 以上)	○	○	-
	商業施設(店舗面積:3,000m ² 以下)	※	※	※
健康増進機能	健康増進施設	○	※	-
医療機能	病院	○	○	○
	診療所等	※	※	※
金融機能	金融機関等	○	○	○
教育機能	教育施設	○	※	-
文化機能	文化施設	○	※	○
交流機能	地域交流施設	○	※	○
宿泊機能	宿泊施設	○	○	○
その他	駐車場 (駐車台数 500 台以上の路外駐車場)	○	-	○

※：届出の対象としないが、民間施設を積極的に誘導する施設を位置づける

4-4.誘導区域外について

(1) 誘導区域外に関する位置づけの考え方

誘導区域外の集落市街地においては、法定計画としての各誘導区域の位置づけは行いませんが、府中市独自に立地適正化計画における方針を本計画に位置づけます。

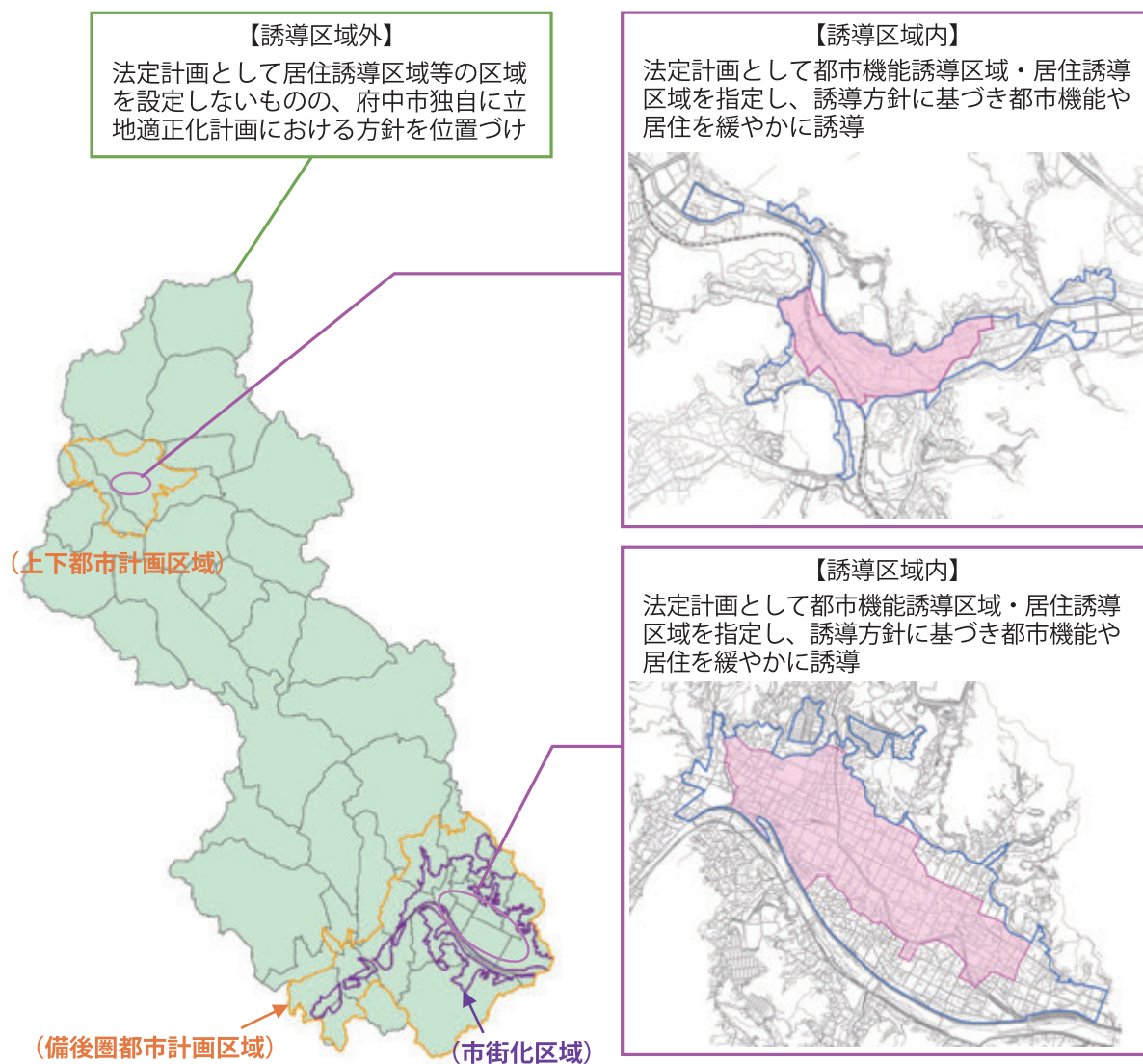


図4-19 誘導区域外の位置づけ

1) 立地適正化計画における方針

① 各生活地域の核となる場の維持

旧小学校区程度の単位を目安として、集会所・公民館機能を核として、地域活動の場の維持及び生活サービスの提供を進めていきます。

② 拠点とつながるネットワークの維持

生活サービスの集積した拠点地域へのアクセス手段を維持していくために、広域的なネットワークとなる幹線道路や生活道路の維持、デマンド型乗合タクシーや路線バスの維持を図っていきます。

③ 空家の利活用や跡地利用

利活用可能な空家に対する補助制度や活用・流通させる場合のメリット等を周知するなど、住宅ストックとしての活用・流通を促進し、空家の除却後の跡地をまちづくりの資源として捉え、地域住民の憩いの場等を整備し、居住環境の向上を図ります。

④ 農林業などの活性化の推進

農林業生産と加工販売の一体化、地域資源を活用した新たな産業（6次産業化等）の創出を促進することや、集落法人などの様々な形態の農業経営を支援し、新たな営農の担い手の育成に取り組みます。

地産地消を推進するため、地元食材を使った学校給食の実施などに取り組みます。

4-5.道路・公共交通ネットワーク

府中市都市計画マスタープラン（R5.4）に掲げるネットワーク型コンパクトシティの実現には、居住誘導だけではなく、各地域の拠点間及び拠点内を移動する持続可能な公共交通ネットワークの構築が不可欠です。本計画では、府中市公共交通計画（R6.3）と整合させながら、市内拠点間ネットワーク及び都市間ネットワークの維持・充実を図ることで、都市機能誘導区域のほか、高次の都市機能が集積する福山駅周辺へのアクセス手段を確保します。これにより、市内のどこからでも都市機能へアクセス可能な環境を目指します。

また、MaaS等の先進的な技術の活用を検討し、公共交通の運行効率化や利用者の利便性向上を図ります。

(1) 各エリアにおける主な施策

1) 備後圏都市計画区域における居住誘導区域・都市機能誘導区域

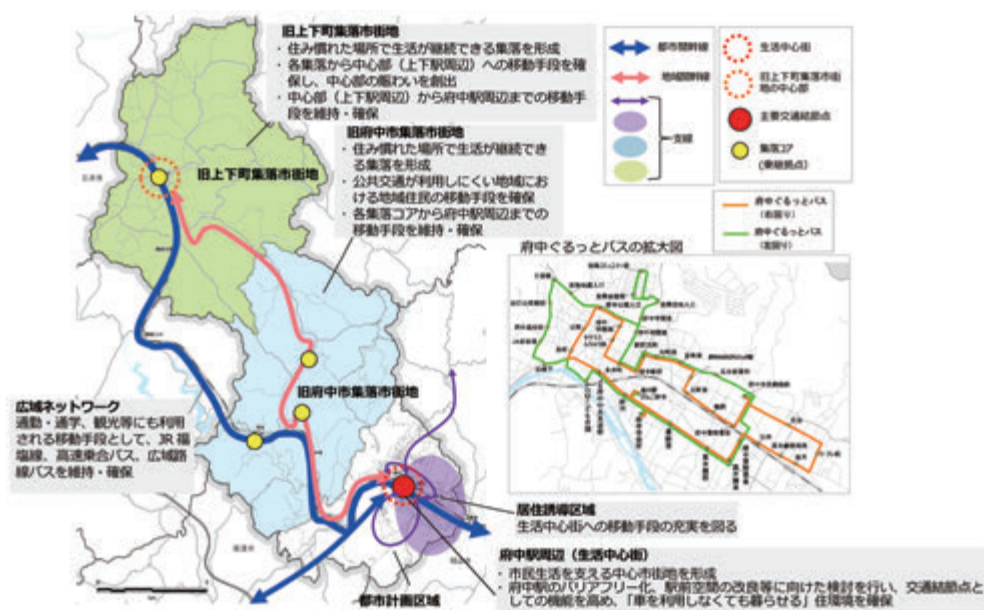
府中エリア内を循環する府中ぐるっとバスの運行によりエリア内の移動手段を確保するとともに JR 福塩線や路線バス（府中福山線、福山市線）により、百貨店、大規模ホール、新幹線停車駅など福山市に立地する高次の都市機能へのアクセス手段及び通勤・通学手段を確保します。また、道の駅びんご府中から運行されている高速バスの維持に努めることにより広島市へのアクセスの維持も図ります。

2) 上下都市計画区域における居住誘導区域・都市機能誘導区域

主要な公共施設等が集積する都市機能誘導区域（公共公益施設拠点型）へのアクセス手段を維持するため、JR 福塩線、路線バスを維持します。また、都市機能誘導区域（公共公益施設拠点型）内の交通結節点において、乗り換えることで福山市や広島市など、高次の都市機能へのアクセスの維持も図ります。

3) 居住誘導区域外

路線バス、ふれあいタクシー、おたっしゃ号、協和元気タクシーにより、都市機能誘導区域（集落交流拠点型）への移動手段を確保するとともに、交通不便地域をカバーする移動サービスについては、今後検討を進め、居住誘導区域外に居住していても都市機能にアクセス可能な体制の構築に努めます。



※府中市ぐるっとバスの拡大図はR7.4時点
出典:府中市地域公共交通計画(R6.3)

図4-20 公共交通の将来のネットワーク